

活動報告レポート	ASKUL Kodomo Art Project
報告日	2012年8月10日
報告者	特定非営利活動法人 子供地球基金

## 被災地の現状

震災から月日が経ち、被災地の現状がレポートされる機会もだんだんと減ってきましたが、現在でも被災地では仮設住宅での生活を余儀なくされ、津波で流された場所は未だ何もありません。

震災後、世界中から物資や寄付があり、生活に必要な不可欠なものは揃ってきた仮設住宅や学校が多いようですが、地元の方のお話を聞くと、「どんなに復興の準備が進んでも、人々の心が前に進まないと状況は変わらない。」と話してくださいました。津波によって愛する人や家を失った人たちが、生きる希望ややる気を取り戻すためにも心のケアが重要視されています。

## アートワークショップ 活動内容

7月16日（日）宮城県亶理郡 キッズアースホーム 12号東北にて、絵を描くアートワークショップを行いました。

宮城県亶理郡は沿岸地域の街で、町の真ん中を走る高速道路を境に、全部流された場所と無事だった場所で運命が分かれた地域です。

福島県と宮城県の県境に近いところに位置しています。

自分たちの小学校は無事だったのに、たった2キロ先の小学校はすべて流され、周りには何もなくなってしまい、多くの方が亡くなった。そして少し南に行けば、原発問題で放射能の危険にさらされている子どもたちがたくさんいる、自分たちの安全すらわからない、それがキッズアースホーム東北のある宮城県亶理郡の子どもたちがおかれている状況です。

繊細な子どもたちが受けた、心の大きな傷を外に吐き出してほしい、そして子どもたちに明るく輝かしい未来を歩いて行ってほしい、そんな想いで子供地球基金は絵を描くワークショップを通して、表現することの大切さを伝える為に活動を続けています

【これまでに東北で実施されたアートワークショップの様子】

野菜をテーマにしてみんなで大きな紙に絵を描きました。



